



カブ（アブラナ科アブラナ属）

カブは、暑さと乾燥に弱い、寒さには強いという特徴があります。温暖地の露地栽培は3、4月まきになります。トンネル栽培では2月まきができます。生育促進と、とう立ち防止にマルチ、べた掛け、トンネル資材での保温が必要です。

【品種】 低温肥大の良い「白鷹」（武蔵野種苗園）、「ゆきわらし」（カネコ種苗）、周年安定した生育をする「耐病ひかり」（タキイ種苗）などがあります。

【畑の準備】 種まき2週間前に1平方m当たり苦土石灰100gを全面にまき、深く耕しておきます。1週間前に化成肥料（NPK各成分10%）100gと堆肥1、2kgをまいてよく混和しておきます（図1）。

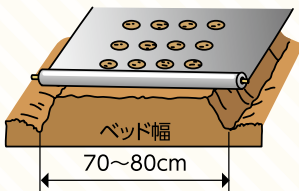
【畝立て】 幅70～80cm、高さ5～10cmのベッド（栽培床）を作り、平らにならします。畑が乾燥しているときは、灌水（かんすい）して土壌水分が適度な状態にし、15cm間隔の穴開きシートでマルチをします（図2）。

【種まき】 種は1穴当たり4、5粒をまき、

図1 畑の準備



図2 マルチ張り



1cmほど土を掛けます（図3）。その後は、発芽促進と幼苗の保温のために、べた掛けとトンネルをします（図4）。

【間引き】 発芽し、双葉がそろった時点で、密になっている部分を間引きします。その後も、生育の劣る株を間引き、最終的に1株立ちにします。

【トンネルの被覆と換気】 冷涼地や温暖地の2、3月はまだ夜温は低いが、昼間のトンネル内は高くなるため、本葉1、2枚の頃から換気を開始します。フィルムの裾を開閉する方法、フィルムに穴を開ける方法や穴開きフィルムを使う方法があります。そして、生育後半にトンネル内の茎葉が繁茂する頃、遅くともヤエザワラの開花の頃にトンネルを除きます。

【収穫】 直径5、6cmから収穫（小カブ）を始め、10～12cm（中カブ）まで収穫期間があります（図5）。

図4 トンネルべた掛け

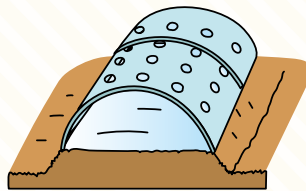


図3 種まき

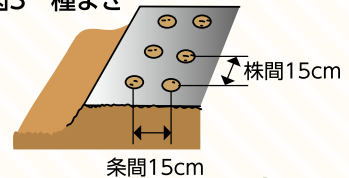
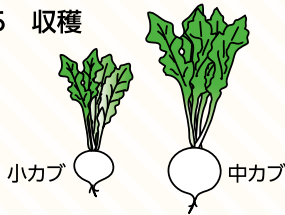


図5 収穫



栽培計画

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
春トンネル栽培（寒冷地）		○	○	●	●	●						
露地栽培			○	○	●	●	●					
秋トンネル栽培（暖地）	●	●							○	○	●	●

○ 種まき ○ トンネル被覆 ● 収穫

《ス入りの原因》

生育の中期以降になると地上部の生育は停滞傾向がでていくが地下部は球肥大のために生育を続けます。そのため、生育後期になると地下部の栄養要求量が栄養供給量を上回ってしまい、球内部の組織が白い海綿状になることがあり、これをス入りと呼びます。

ス入りを回避するためには適期収穫を心掛けることが重要です。

《裂根の原因》

生育初期に土壌水分や肥料が不足すると周皮が老化し、生育後期に降雨により土壌水分が多くなると急激に肥大が進むと裂根が多発します。裂根を防止するには、肥料切れ・乾燥・生育後期の急な肥大を避ける水分管理を十分に行うことが大切です。

日当たりの良いところで土壌が保水力に富み、排水良好な地力のある畑を選んでください。普段から土づくりに注意を払い、発芽不良や裂根の防止に努めましょう。

JAグリーン津店が
栽培のポイント
教えます！

JAグリーン津店
グリーンアドバイザー認定
城博一